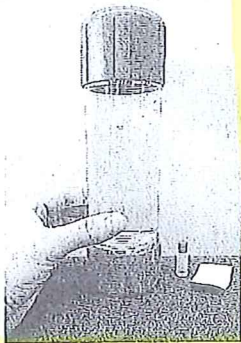


# 茨城の原子力関連企業

## 原発停止、異分野に活路

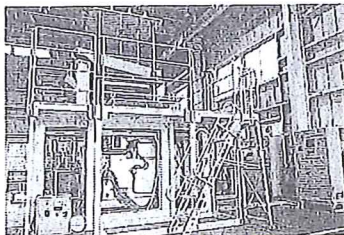
茨城県内の原子力関連企業が健康・美容や製造など新規事業の育成に乗り出した。県内には原子力発電所や原子力研究機関が立地していることなどから、関連機器の製造などを請け負う企業が多く、原発停止の長期化が経営の足かせになっている。原子力関連事業で培った技術などを生かし、異分野に参入することで、収益基盤を強化する狙いだ。

水素水生成器は3分程度で水素水を作れる



### 美容向け水素水生成器 ▲S.P.エンジ ▼助川電気工業 電磁力使った鑄造装置

新たな鑄造装置は高品質のアルミ製品を製造できる



原子力関連機器などを製造するS.P.エンジニアリング(茨城県日立市)は今年、健康・美容関連分野に進出。東洋技研工業(同市)やNTCドリウムマックス(東京・中央)と共同で、抗酸

水素水は体内の活性酸素を取り除く抗酸化作用があり、健康や美容に役立つとされる。価格は生成器が1万2000円、水素発生剤(30個入り)が3600円。ドラッグストアや化粧品専門店などで販売しており、すでに1万本以上が売れた。同社は原発の清掃・点検装置などの製造が主力

化作用があるとされる水素水を簡単に作れる携帯型の生成器を開発した。生成器は小型の筒状容器。水素発生剤と水を入れて容器を振ると、3分程度で水素水ができる仕組みだ。生成器は電気を使わずに容器内の圧力を高め、水素を効率的に水に溶かすのが特徴。原発の原子炉清掃装置の開発などで培った圧力制御技術を生かした。

水素水は体内の活性酸素を取り除く抗酸化作用があり、健康や美容に役立つとされる。価格は生成器が1万2000円、水素発生剤(30個入り)が3600円。ドラッグストアや化粧品専門店などで販売しており、すでに1万本以上が売れた。同社は原発の清掃・点検装置などの製造が主力

事業だが、原発停止後は受注が止まり、売上高が3割減った。このため、水素水事業を新たな収益源に育成する考えだ。茨城県高萩市に本社を置き、原発や高速増殖炉向けの温度測定・加熱装置やポンプを製造する助川電気工業は高温で溶けた液状のアルミニウムを空気に触れさせずに、電磁力を使って鑄型に直接注入する鑄造装置を開発。自動車部品メーカーなどに販売している。

核燃料サイクル支援などを手掛けてきた検査開

発(同県東海村)は大規模太陽光発電所(メガソーラー)事業に参入。同県行方市に昨秋、出力1000キロワットの発電所を開設した。全量を東京電力に売電し、年間約4000万円の収入を見込む。茨城県内には日本原子

力発電東海第2原発(東海村)や福井県の高速増殖炉など原子力関連施設の業務を請け負う企業が多い。だが、東京電力福島第1原発事故後は原発停止や原子力政策の見直しにより、先行きの不透

明感が強まっている。



8月20日  
水曜日

発行所 日本経済新聞社  
東京本社 ③(03)3270-0251  
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7  
大阪本社 ③(06)6943-7111  
名古屋支社 ③(052)243-3311  
西部支社 ③(092)473-3300  
札幌支社 ③(011)281-3211

